

奈良県の子どもたちのために



今年の4月も、令和2年度新規採用の先生方を私たちの新しい仲間として迎えました。今を盛りに咲き誇る桜に見守られ、教員としての第一歩を踏み出してくれました。

AI・IoTの進展やグローバル化の加速等による変化の激しい時代を生きる本県の子どもたちには、生涯にわたって「学ぶ意欲」をもち続けてほしいと願っています。

「学ぶ意欲」は全ての力の源であり、自身の可能性を最大限に伸ばす「鍵」となると考えるからです。今後はさらに、社会の変化に対して受け身ではなく主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して自らの可能性を最大限に発揮し、自ら人生を創出することも求められていくでしょう。奈良県の先生には、「奈良県教育振興大綱」の基本理念である「育人(いくじん)～県民一人一人が学び、育ち合い、潜在力を最大限に引き出す～」をふまえ、子どもたちの「学ぶ意欲」をさらに高められるよう「専門的力量」、「人間的な魅力・人間性」、「学び続ける意欲」の3つを備えておいていただきたいと思います。卓越した知識、専門性をもち、人としても魅力的であり、教員としての向上心をもち続けることができる。そのような先生が必要です。

学校は誰のためにあるのかと問われると、それは「子どものため」と誰もが答えるでしょう。では、学校は何のためにあるのかと問われれば、私は、学校は「不可能を可能にするため」にあると答えます。昨日できなかったことが今日できるようになる。今日上手にできなかったことが、明日少し上手にできるようになる。学校は学びの場であり、伸びる場であり、いくつもの「感動」がちりばめられている、そういう場所であってほしいと思います。子どもの成長を願いつつ、自らを磨き続けることで培った深い専門性と豊かな人間性で、子どもたちと正面から向き合うこと、そしてその成長に立ち会えることが教員の「喜び」であり、「やりがい」です。

みなさんにとって、「記憶に残る先生」とはどのような先生ですか。

うれしいとき共に喜んでくださった先生、辛いとき優しく寄り添ってくださった先生、ためらっているときそっと背を押してくださった先生、時に厳しく指導してくださった先生……。この先生との出会いにより、教員を目指した方もいるのではないのでしょうか。先生との出会いは、子どもたちの生涯に大きな影響を与えます。そのときは分からなくても、成長した子どもたちの人生に生きている教えもあります。

教員には定年がありますが、「先生」を引退することはできません。「先生」は、いつまでも教え子たちにとって「先生」であり続けるのです。教え子がいくつになっても「先生」として、その言葉が、その存在が教え子たちの心の支えとなる、奈良県はそんな「先生」を求めています。

奈良県の教員を目指すみなさん！

生徒の個性や価値観と向き合い、長所を伸ばす教育を展開することで、奈良県の学校教育の質をさらに高めていくことができます。皆でアイデアを出し合いながら、奈良県の教育に新たな価値を生み出していきましょう。

教育は未来をつくる営みです。私たちの仲間になって、奈良県の子どもたちの未来のために一緒に頑張りましょう。

奈良県教育委員会教育長 吉田 育弘